

# まごころこめて磨き合う なまづっこ



「なかまと まごころこめて すすんで やりぬく子」

～学び磨き・こころ磨き・健康磨き～

2024.1.31 発行

まだまだ寒さの厳しい日が続いています。しかし、窓から入る陽ざしが輝きを増してきたり、木々の芽がもう少しで芽を吹くよと語りかけたりしているように感じます。

さて、2月3日は節分の日です。「節分」とは元来、季節の分かれる日の意味で、立春・立夏・立秋・立冬の前日を指しています。その中で立春が一年の初めと考えられることから、「節分」といえば、春の節分を示すものとなってきたそうです。また、季節の変わり目には邪気が生じやすいと思われていて鬼払いなどの儀式が行われるのが一般的になりました。「節分」に豆まきをするのは、新しい春を迎える前に邪気を払って幸福を呼び込むために行われていたものが始まりだそうです。

豆まきをされるご家庭もあるかと思います。「鬼は外、福は内」の声をかけながら豆まきをします。これは、悪い鬼をやっつけるのではなく、自分の心の中にある悪いところを外に出してしまうことだそうです。単にぶつけることを楽しむのではなく、自分の弱いところ、直したいところを願いながら行いたいものです。人はいくつになっても課題があり、反省する点もあります。そして、その課題を解決し、よりよくなろうとするのが、人としての成長です。ですから、子どもたちだけでなく、私たち大人も日々自分の生活や生き方を見直し、さらに成長していきたくものです。節分は、自分を見つめ直すよい機会にもなりそうです。

## 「まごころ」をもって

生津小学校の教育目標は、「なかまと まごころこめて すすんで やりぬく子」です。どの教室にも黒板の上に掲げられ、全校でこの目標に向かって生活しています。

辞書には「まごころ」＝「真心」  
「いつわりや飾りのないありのままの心・気持ち。誠心誠意、他にほどこし尽くす心。」とあります。

学校では、「まごころそうじ」といって、掃除分担場所を15分間集中して掃除を行い、ぴかぴかの学校を目指しています。また、いつでも、どこでも、誰にでも気持ちのよい挨拶をしようとして取り組んでいます。朝の登校の様子をみると、自分から元気よく挨拶をする子どもたちが増えてきて嬉しく感じています。このようにすてきな行いをしている仲間「まごころみつけ」をして、学級でたたえ合ったり、企画委員会が全校で紹介したりしています。

「ありがとう」「すごなあ」「ごめんね」と、真っすぐな気持ちで仲間と接すると、仲間は嬉しい気持ちになります。心が温かくなります。しかし、誰にも気づいてもらえない

時があって、認めてもらいたいなと思うときもあるでしょう。でも、人を嬉しい気持ちにさせてくれる『まごころ』は、人のためにあるものではなく、すてきな自分のためにあるのだと、この詩は教えてくれているようです。いつでも、どこでも、まごころをもって生活できる人、すてきですね。これは、「なまづっこ宣言」をめざすことにもつながります。

### まごころ

心から「ありがとう」って思えるとき  
「すごいなあ」って感動できるとき  
「ごめんね」ってやっと言えたとき  
そこには きっと まごころがある

まごころのある行いは 周りの人の心を動かす  
まごころを 感じとることができたとき  
その人の中にも まごころが芽生え  
まごころは つながり ひろがる

ときには まごころをこめた行いをしても  
だあれも 気づいてくれないときもある  
だれにも 認めてもらえないことだってある  
いやになってしまうこともある

それでも  
いつでも どこでも  
まごころのある行いを続けられる人は  
ほんとうに まごころの ある人だ